

デイケア



皆様の共同作品です。
いつも素晴らしい出来栄です！

たくさん掘ったぞ～！



デイケアご利用者で育てたじゃが芋です！
とても良く育っており、たくさん収穫出来ましたね。土を触って皆様の表情も朗らかで、とても楽しい時間となりました。



夏バテ予防にしっかり食事！！

そろそろ日差しも強くなり、日陰が恋しい季節になりました。夏バテしないよう、夏こそしっかり食事を食べたいですね。

～食中毒に注意しましょう～

でもこの季節、やっぱり心配なのが食中毒です。

多くの食中毒菌は30～40℃で最も活発に繁殖します。夏場だけでなく、一年を通して食中毒は起こるので食中毒対策は日常的に行いましょう。

<食中毒対策>

1. 手洗い
調理前や生肉・生魚を扱った後、トイレ後は必須
2. 保存は低温で
食べ物はなるべく早く冷蔵庫へ保存して、早めに食べましょう。
3. しっかり加熱
加熱処理で中までしっかり火を通してから食べましょう。
4. 調理器具の殺菌
5. まな板や包丁、スポンジからの感染もあります。

菌・ウイルス	症状	要注意な食品	潜伏期間
サルモネラ菌	発熱・腹痛など 風邪と似た症状	卵・肉など	10～72時間
病原性大腸菌 (O-157 など)	腹痛・下痢・ 血便など	肉・井戸水など	2～9日
黄色ブドウ球菌	嘔吐・下痢・ 発熱など	食品全般。人の 手などから感染する	約3時間
ノロウイルス (冬に多い)	嘔吐・下痢・ 発熱など	カキなどの二 枚貝や感染者 が調理した もの	

編集後記

梅雨が明けましたが、まだ夏らしい天気には遠く、じめっとした日々が続いています。今回の広報誌では熱中症の予防について載せています。熱中症の正しい知識を身につけて、気をつけていきましょう。今年こそ！優勝信じて、後半戦もしっかり応援していきましょう！！

(副編集長Y)

広報誌

牛田バラ苑

夏号 2015.7.21 発行



苑内の行事

牛田バラ苑では、入所、デイケア利用の方々と職員が一緒になって、手作りで季節の行事を楽しんでいます。また、多くのボランティアの皆様も来苑され演奏や歌、踊りなどをご披露頂き、大変喜んでおります。

七夕祭りやボランティア行事の様子などは2・3ページにご紹介しています。

地域との連携

牛田中学校、早稲田中学校の生徒さんの職場体験学習を受け入れています。真剣に学習に取り組みながらも入所の方々に優しい笑顔で声をかけ、喜ばれていました。また、牛田新町小学校6年生の1, 2, 3組の皆さんには、交流会という形で来苑していただきました。この様子も季節の行事とあわせて2・3ページにもご紹介しています。



〒732-0068 広島市東区牛田新町3丁目30-30

TEL : 082-222-8000
FAX : 082-222-8006

牛田バラ苑居宅介護支援事業所 (3470102355)
介護老人保健施設牛田バラ苑 (3450180108)

バラ苑の行事

5月



小さな鯉のぼりに色をつけ、つなぎ合わせて大きな鯉のぼりにします。色塗りは細かい作業ですが、皆さん丁寧に塗られていました。



カーブ仕様の鯉のぼりも作成 >))) ♪

5月の活動は大きな鯉のぼりを5匹作りました。鱗の部分は、皆さんが塗ったためり絵を張り付けています。とても綺麗に仕上がりましたよー☆

7月



七夕に向けて、皆さんで七夕飾りや短冊を作りました。たくさん作った飾りは、利用者の皆さんと職員と一緒に飾り付けをしました。

健康やカーブの優勝など、願い事はさまざまようです。



短冊を結びます



飾り付け完成!



6月



折り紙を使ってあじさいを制作しました。大きさも様々です。完成した作品は1Fホールに飾り、蒸し暑い季節の清涼感を楽しんでいます。ご来苑の際にはぜひご覧ください。



うらしま太郎の劇や紙芝居、全て自分たちで考えて練習してきます。子供たちの出し物が終わった後は職員と一緒に配膳もお手伝いしてもらいます。緊張しながらも丁寧に運んでくれました。

じゃんけんゲームで楽しめました



食事配膳のお手伝い☆



6月はあじさいの制作と、毎年恒例となっている牛田新町小学校の生徒たちの交流会を行いました。子供たちの出し物に、皆さんとても喜ばれていました。

短歌で賞状をいただきました!!

俳句や短歌を趣味とされ、意欲的に取り組まれています。この度、短歌で入選されました。作品作りの励みにもなりますね! ご自分のペースでこれからも頑張らしましょう!



絹さやの 実る姿を見に行けば 蔓に多数の莢がブランコ

看護だより

~熱中症を知って、しっかり予防! 楽しい夏を過ごしましょう!~

一昨年6月から9月の間で全国の熱中症患者は約40万8000人でした。この熱中症、日射病や熱射病と何が違うのでしょうか? 症状によりさまざまな呼び方がありましたが、10年前より暑さによる体の障害をまとめて熱中症と呼ぶようになりました。人は気温や体温の上昇を、汗をかくことによる気化熱で体温を一定に保ちます。しかし、体内の水分が少なくなると、汗が出なくなり体内に熱がこもってしまいます。これが熱中症です。熱中症患者さんの約半数が65歳以上となっていて、発生場所は室内が全体の約4割です。エアコンを我慢しがちなお年寄りには特に注意が必要です。



熱中症の主な症状



今年も暑くなりそうです。元気に夏を乗り切りましょう!

熱中症の重症化や死亡例は、梅雨あけの1週間から10日が多くなります。自分で出来る対策としては、こまめな水分補給です。特に年配の方は体の水分量は少ないため、のどが渇いたと感じなくても暑い日は水分を摂るようにしましょう。

